

花山地区「小さな拠点」づくり推進協議会（宮城県栗原市）

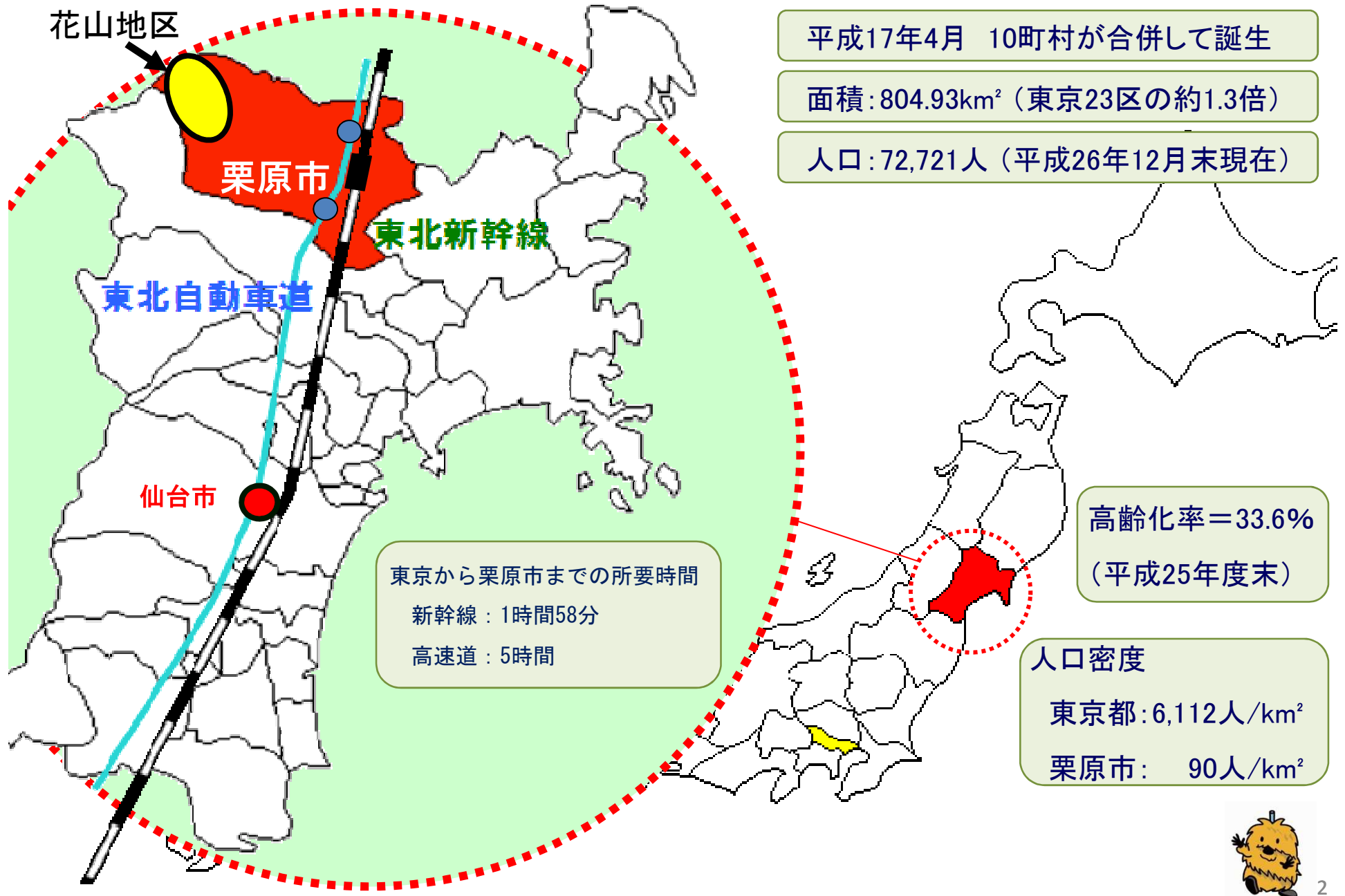
花山地区「小さな拠点」づくり 推進協議会の取り組み

会長 大場徳幸（花山行政区長会）

平成26年度「小さな拠点」づくりフォーラム in 島根

平成27年2月12日（木）

栗原市の概要



栗原市の風景



渡り鳥の楽園、伊豆沼



極楽浄土、伊豆沼の蓮



平安絵巻、薬師まつり



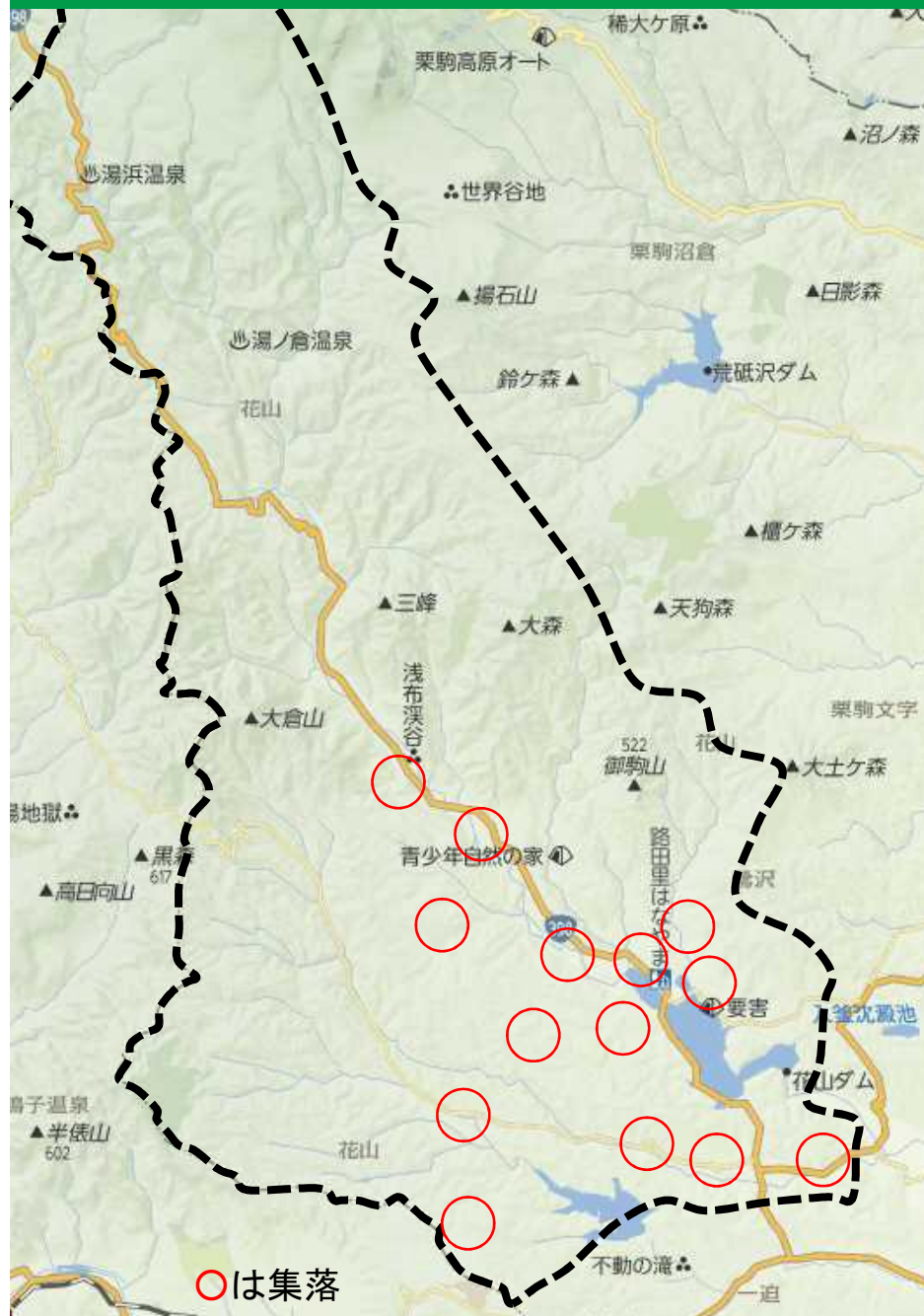
正藍冷染

宮城県北西端、栗駒山の麓に広がる、豊かな自然が織りなす四季折々の景観が美しい田園都市
面積の8割近くが森林や原野、田畑で、宮城県有数の米どころ



日本一と称される栗駒山の紅葉

花山地区の概要



宮城県北西端、栗駒山(奥羽山脈)の麓に位置する中山間地で豪雪地帯。国有林が大半を占める
 主な産業は、農業と林業、観光。少子高齢化が進む典型的な過疎地で、高齢者の独居割合が高く、除雪が負担

人口	1,172人
人口密度	7人/km ²
面積	158.9km ²
高齢化率	42.6% (市内で最も高い)
集落数	14集落 (3つが限界集落)
道路延長	129km
除雪路線	73km
公共交通	コミュニティバス
小学校	児童数25名
中学校	平成25年度に閉校
病院	診療所
商店	数軒
金融	郵便局

花山地区の風景



浅布溪谷



花山そば



寒湯御番所



秘湯
ランプの宿



鉄砲まつり

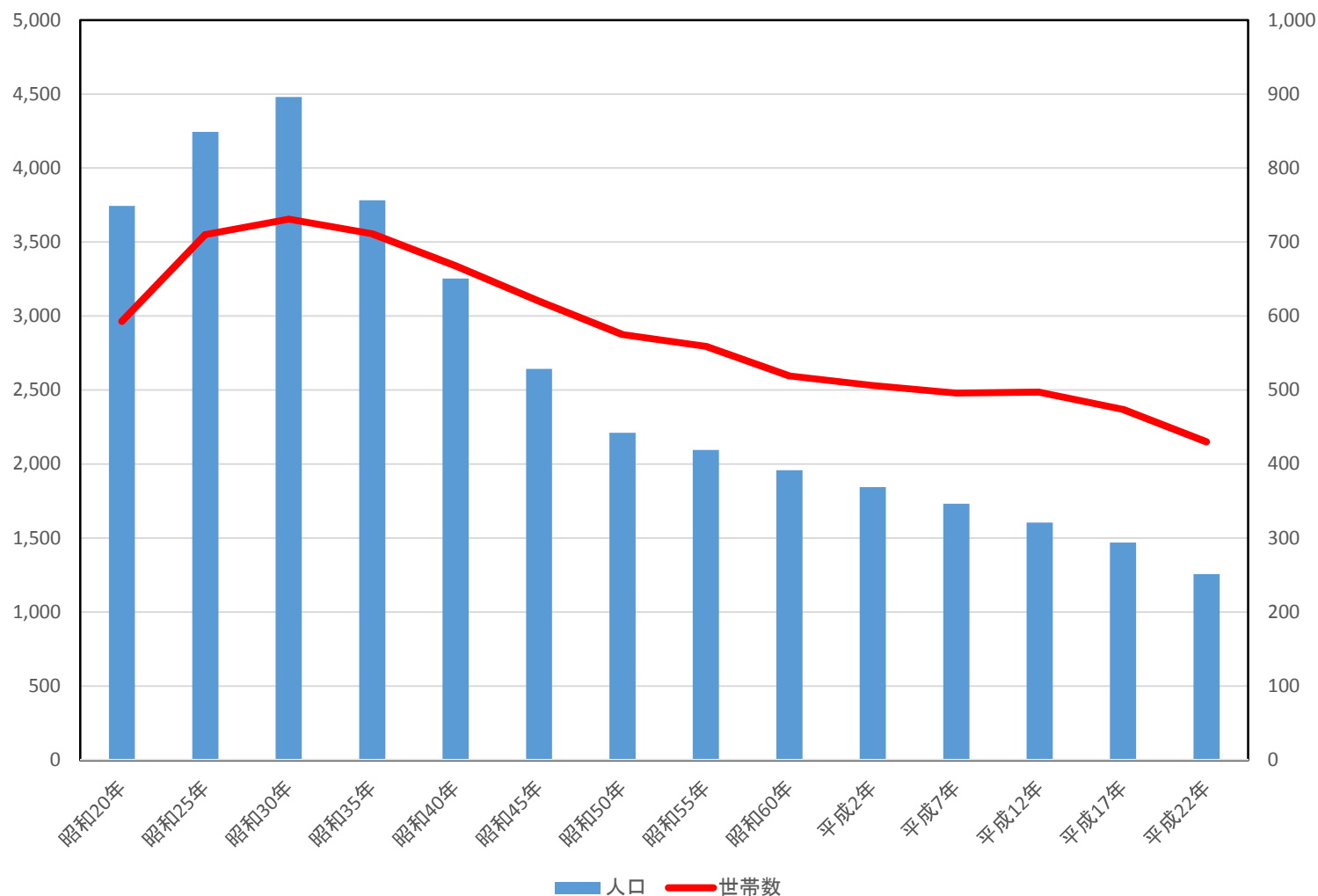


日本一大きい千年クロベ

花山地区の人口と世帯数の推移(国勢調査)

人口減少の大きな原因

- 1, 昭和31年(人口4,560人)、花山ダム建設により村の中心部が水没し、446人が村外へ移転
- 2, 昭和30~40年代 高度経済成長で都市への急激な流出
- 3, 昭和54年、小田ダム建設により50人が村外へ移転



花山地区を襲った2回の大震災

平成20年 岩手・宮城内陸地震

世界最大の加速度 山間部で大きな土砂災害、孤立集落発生
死者13人、行方不明者4人、負傷等180人
長期にわたる避難生活、農業と主要産業となった観光に大打撃



▲ 土砂崩れが道路を閉鎖



▲ 国内最大級の地滑り



▲ 長期にわたる避難生活



▲ 河道閉塞による天然ダム

東日本大震災

最大震度7 死者なし ライフラインに大きな被害、原発事故による放射能汚染により観光に大打撃



▲ 破壊された道路

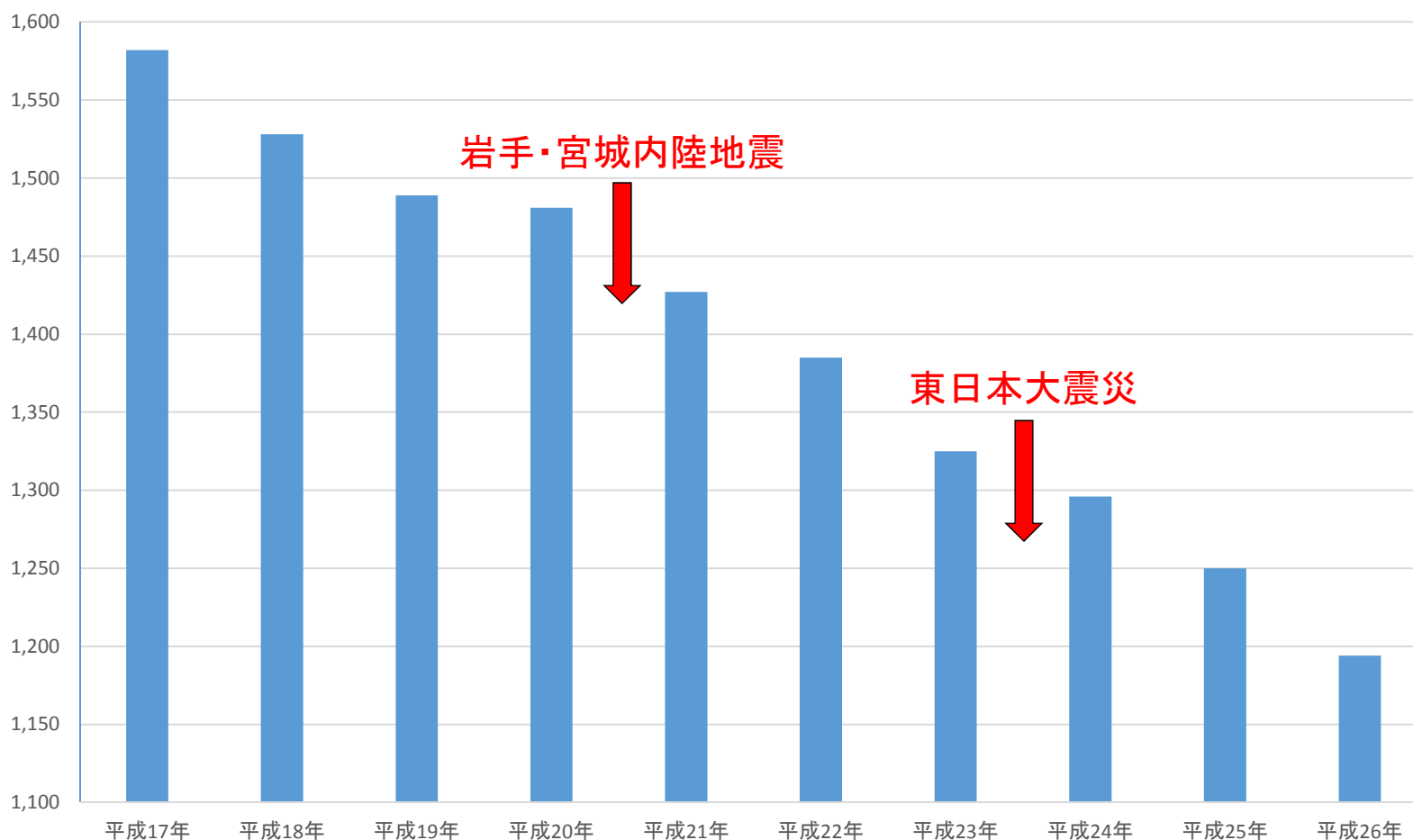


▲ 原発事故による放射能汚染で出荷規制

近年の人口推移(住民基本台帳)

10年間で住民が400人弱も減少。近年、人口減少がふたたび加速

平成20年、岩手・宮城内陸地震により山間部で山体崩壊や土砂崩れ、河道閉塞など大きな被害。幹線道路閉鎖で農業と観光に大打撃。長期にわたる避難生活で地区外転居者も増加。
平成23年、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による放射能汚染により、観光と農業に大打撃。若者の流出が加速。



人口減少と少子高齢化による将来の不安



▲ 住民バスの運行減少・廃止



▲ 診療所の閉鎖



▲ 郵便局や金融窓口の閉店



▲ 商店の閉店



▲ 給油所の閉店



▲ 地域経済の縮小、活力低下



▲ 農村環境、景観維持の危機



▲ 除雪の負担増



▲ 地域の活力低下

人口減少と少子高齢化による花山地区の課題

人口減少

少子高齢化



公共サービスが低下する恐れ

一定の人口規模が維持できない生活圏では、診療所、小学校、郵便局、役所、バスなど公共的サービスが低下または消滅
→ 移動手段の有無が生活の質に影響。通院・通学・移動の負担増、買い物難民や閉じこもりが発生

民間サービスが消滅する恐れ

地域経済の縮小、商店や給油所などの後継者不在により民間企業が撤退する恐れ
→ 地域で生活必需品が買えず、交通弱者の負担増

地域が脆弱に

限界集落(消滅可能性集落)発生が招く地域の脆弱性
→ 地域の活力低下、住民自治や冠婚葬祭など共同体機能の低下、孤独死の発生、除雪や災害等の対応力低下
→ 農村環境の荒廃、生態系保全や景観維持の危機



地域存続の危機

住民に危機意識が芽生えだす



住民と行政の橋渡し役の「花山地区行政区長会」が、大きな危機感に駆られ課題解決のために立ち上がる



「小さな拠点」づくりモニター調査へ応募